

教育

嶋田友一郎 議員（白和）

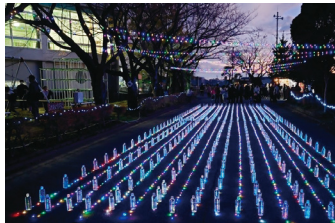
令和の日本型学校教育の充実を 白岡から

答弁…学校規模や実態を踏まえ取り組んでいく

問 現在の学校教育では、個別最適な学びと協働的な学びの両立や地域が一体となった特色ある学校づくりが求められている。小学校における教科担任制や地域支援型PTA活動の導入など、教員・保護者の負担軽減につながる先進的な取組を推進してはどうか。

答 小規模校における教科担任制は、教員の人数が限られているため難しいが、今後も適切な教職員の配置を進めていく。

また、学校運営協議会の組織を生かしながら、地域と学校とが一層連携し、「地域とともにある学校づくり」を進めていく。



「おおやまランタンナイト」による特色ある学校・地域づくり

経済 物価高騰への支援と 市内経済の活性化を

答弁…新たな支援策を検討していく

問 エネルギーや物価の高騰により、消費者、市内の小売事業者や経営者が厳しい状況に置かれている。しらかか応援商品券事業やスマートフォンポイント還元事業の再開、その他、市独自の支援事業を新たに実施することなどにより、市内経済の活性化を図れないか。

答 現在、中小企業者等に電気及びガス料金に応じた補助金を交付している。過去にプレミアム付商品券やキャッシュレス決済ポイント還元事業を実施しているが、今のところ実施の予定はない。

今後も、国の交付金を活用した新たな支援事業を検討していく。



文化

菱沼あゆ美 議員（公明党）

中央公民館の駐車場不足に解決策は

答弁…来館者の駐車場スペースを確保していく

問 中央公民館でのイベント開催時などでは、「駐車場が満車になり困っている」との声がある。解決策は考えているか。駐車場の移設や、周辺の民間駐車場の活用などを行ってはどうか。

答 第二駐車場に駐車しているシルバー人材センターの公用車や職員の車を近接地にある市所有地に移動し、来館者の駐車場スペースを確保する。また、イベント等の開催時には、公民館敷地内の建物周辺の空きスペースを関係者等の駐車場として有効活用していく。



中央公民館の駐車場

健康 若い世代へ骨粗しょう症 予防の推進を

答弁…若い世代への啓発を行っていく

問 骨粗しょう症予防は、健康寿命の延伸と医療・介護費用の抑制になり重要である。年2回の骨密度測定の数回を増やせないか。骨量のピークは18～20歳で、その後減少する。20歳から受診できるため「二十歳のつどい」を骨密度測定の周知のチャンスにしてはどうか。

答 1回の測定に最低測定人数があるため、他の事業と合わせて集中的に実施しており、事業の効率化による費用対効果などを踏まえて慎重に検討していく。

また、若い世代への啓発は重要であるため、二十歳のつどいで骨粗しょう症の啓発資料を配布する。